

## 今年も「松の芽摘み」を行いました

令和6年5月9日(木)

松の木は古来より、神様が宿る「めでたい木」とされ、本校の校庭を取り囲む松の木は、創立当初から本校のシンボルで、かつては数百本あったと言われています。「松の芽摘み」は、昭和52年、勤労体験の一環として本校で始まった伝統行事です。コロナ禍のブランクはありましたが、令和4年度より復活し、近年は松の木の本数に合わせておよそ一人一本、3年生のみで行っています。



一本の松の木を自分になぞらえ、松の芽を摘むだけでなく、草を引いたり、落ち葉を拾ったりして世話をすることで、3年生の一人一人が、「松の芽摘み」を通して自身の進路実現を心に誓ってほしいと願っています。

※ CCNet さんにも取材いただきました。（「ウィークリーもとす」で5月20日～5月26日放送）